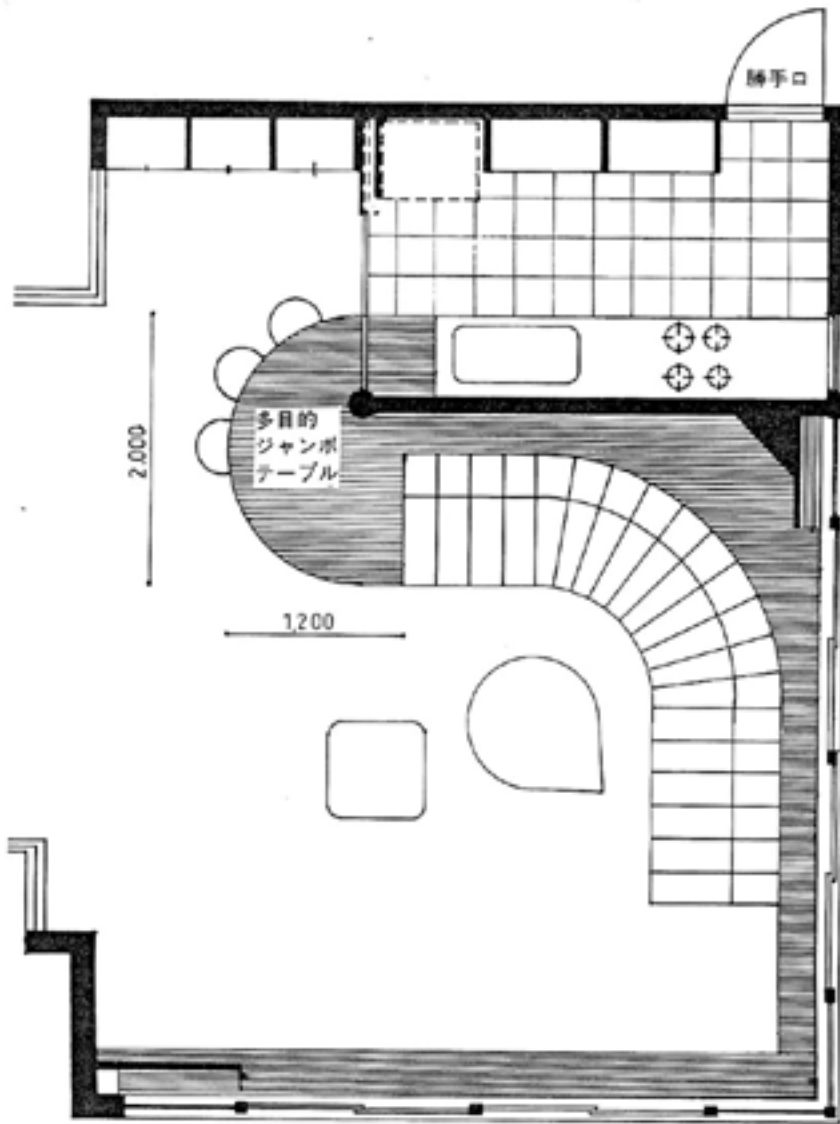


ユーティリティ・主婦の広さを考える

図・文/本多和夫



●快適スペース①台所隣接家事労働集約型ユーティリティ



●快適スペース②居間に取込むユーティリティ

また子供をしながら仕事をすると時にも孤立しないような位置にしたいものです。機能だけを求めている側になんとか敷けたユーティリティは、実際には使われなくなってしまうことが多いためです。

最小スペース

① 屋外に設ける洗い場付き水栓です。洗濯、掃除用流しとして屋外にこれがあれば、一応の対応はできます。

② 洗濯機の隣に洗濯流しを置き、その上に取りはさみのできるカウンターを

設けた例です。カウンターの上下は作業台、脱衣台として使えます。アイロン台は、折りたたみ式で壁に収納します。

③ 洗濯機を洗面所に設けた例です。脱衣室、洗面所を兼ねた洗濯室です。脱衣の収集、給湯、給水設備の併用集中化、風呂の残り湯の利用など利点が多くなり一般的にみられます。

快適スペース

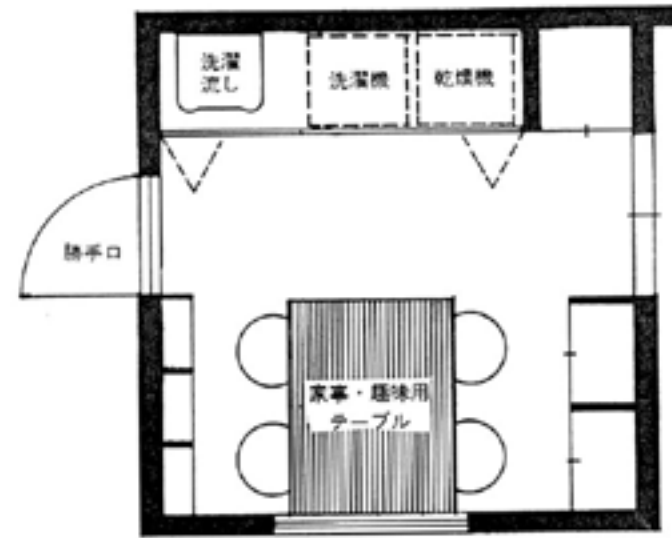
① コンパクトに家事スペースを集約した独立型の例です。ハフスキーピング、

ホームマネジメント、ホビーとなどでも役立つ家事機や収納棚を多く取り入れていますので使いやすいでしょう。独立している時には乾燥室として衣服を干したり散らかしたままでも気にかけられない部屋でもあります。

② 居間と台所の間に大きな多目的テーブルを作り、ホームマネジメント、配膳、アイロン、ミシン台として利用できます。回廊の中で家事労働をこなして家族との共通の時間を多くもてるタイプです。



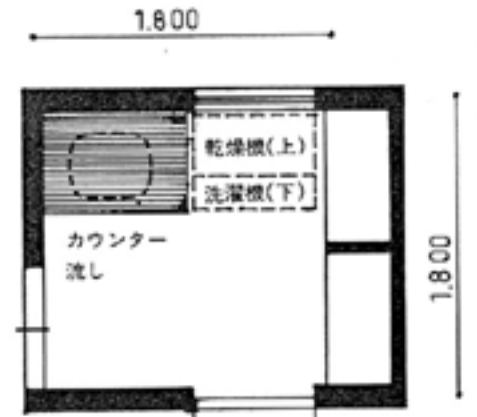
●通路型独立ユーティリティ



●ホビーコーナー兼用独立ユーティリティ



●最小スペース①屋外の流し



●最小スペース②洗濯流し+カウンター



●最小スペース③洗面+洗濯コーナー

今回はユーティリティ、家事スペースの広さがテーマです。主婦の家事労働を軽減し、働きやすい環境を創出することを目的として設計しました。夫や子供達が家事に参加しやすい家族

共同型のプランや、主婦が居続けるパーソナルスペース型など、その家の生活スタイルによって様々なプランが考えられます。ここでは、そのいくつかの例も挙げて紹介してみたいです。

北側に何となく設けた、ではダメ。家事労働は、一つの仕事だけでは済まないので仕事を並行して行います。その中で、時間いかに有効に使うかが、家族を揃えるための鍵です。